

入荷量激減の意味する物は



昨年五月のアラスカ材 第一船



今年五月のアラスカ材 第一船

本年の五月二十六日に大阪岸和田港にアラスカ材スプルース原木が入りました。数量は約400立方です。去年は約2500立方の入荷がありました。昨年と比較して6分の1の入荷量です。

この6分の1と言う数字が意味しているのは、日本の住宅マーケットが一つの曲がり角に来ている証拠だと思います。ただ単にマーケットが冷え込んでいる証拠でしょうか。この冷え込みは今までの景気循環的な冷え込みでは無く、おそらく今まで建築されていた年間の住宅着工戸数の100万棟が近い将来80万棟以下しか需要が無いことの現われだと思えるのは考えすぎでしょうか。

そこで思い出した話『懇意にしている建築士さんから聞いたのですが現在の日本の住宅で約550万棟が余っています、主に借家ですが。』が有ります。550万棟も余っていて、何で毎年100万棟の住宅が必要なのか不思議に思いませんか。私は大変不思議に思います。

ところで現在の日本の家の寿命は現在約30年と言われていています。欧米は倍以上の約80年です。この50年の差が意味しているのは、資源の無駄使いだと思います。

地球温暖化が肌身に感じるようになってきている現状を鑑みた時、日本人一人一人が考え方『量から質への転換が日本人に求められている』を大きく変更する事が必要では有りませんか。

もう日本が量の確保をしなくても困らない需要しかないマーケットでは日本国内の木材資源（主にスギ・ヒノキ）を有効に利用しながら、どうしても質の面で劣る国内産の代わりに輸入されている木材資源（スプルース等）をもっと有効に利用する必要があるのではないのでしょうか。

私は木材の虫です。木の事しか知りません。建築の細かい事は全く知りません。しかし『餅は餅屋の』諺では有りませんが、住まい作りをする建築士さんの良きアドバイザーになり、木材のプロとしてはっきり『例えば使いたい木材が有るとき使い方はこうした方がよりお施主様に喜んで頂けます等のアドバイス』言う必要が有るのではないかと思います。

上記の話を知りやすくする為に住宅から食べる物に少し変えると解りやすいと思います。日本人の食物の自給率が昨今のデータではカロリーベースで約40%を切っていると言う数字を皆様は新聞報道でよくご覧になっていると思いますが、食べ残しで廃棄されている量は全体の20~25%近く有ります。という事をご存知な方はどれ位いるのでしょうか。もし食べ残しをしなかったら国内産の食材だけでももう少し自給率が上がるのでは無いかと思うのですが。

『量から質への転換こそ日本人が貢献出来る地球温暖化防止だと思います。』

ハウスメーカーの注文住宅は注文住宅ではない

私は昭和61年に亡き父親に大手ハウスメーカー（大建ホーム）の建ててもらった注文住宅に住んでいます。親しい建築士さんと住まいに対する話をしていたのですが、その時の話し『服部君の住んでいる家は建売住宅ですよ。』にショックを受けましたが現在は本音の事を教えて頂いたと思っています。

話しの内容は以下です。ハウスメーカーの住宅はあくまで工業化された物で有ってそれ以外の物ではない。つまり基本フォーマットが最初に有りそれにお施主さんの希望を取り入れて唯建築しているのであって本当の意味の注文住宅では有りません。と言う話でした。（この建築士さんは大手ハウスメーカーの元コンサルタントをしていてハウスメーカーの方針に罪を感じ本当の住まい作りを目指している方です。）話しの内容は次のとおりです。

住まい作りとは、本来工業化された物ではない筈ですよ。パソコンみたいに同じ物が大量生産される物では有りませんよね。人がいて、その中に暮らしが有り、そして家族が有り、歳もとり、別れもあり、新しい出会いもある。生活空間があるのですよね。人は全てが違うのですよね。人は全て同じ性格でもないし、同じ価値観でもない、人生哲学から何から何まで全て違うのですよね。だから住まい作りは本来基本フォーマットが無くて良い訳ですよ。無理な要望等をお施主さんから聞いて無理やり基本フォーマットに乗せて住まいづくりをする事自体に無理が生じると仰っていました。



上記が私の住まいのキッチンですが、コンロが傷んでいて火事の心配が有ります。そして水周りのコーキングが凄く傷んでいるので工事をします。その時構造部分が見えると思います。プレハブメーカーの家が良いとか悪いとかの話ではなく手抜き工事が行われていないかを見るのに非常に興味が有ります。しかし心配は相当しています。もし躯体に損傷が無ければ良いかと。

ところで私の家の近くでかなり大きい家のリフォームが行われました。後から知ったのですが日本人なら大抵は知っている有名な建築士のお弟子さんの建築士が取り組んだ物件でした。リフォームの主な内容は梁を飛ばして広いスペースを確保する事です。梁を飛ばすために鉄骨を組んだ方法が取り入れられました。それは上手いこと考えたなーと思いました。しかし隠れる柱にEW（エンジニアウッド）が10本程度使われたことに私はショックを感じました。有名な建築士のデザインする物件なら当然無垢のヒノキの柱を使うのが当たり前だと思うのです。1本1000円違っても合計10,000円では有りませんか。何と情けないと感じましたし、納材した納材業者は知っている業者だった事も寂しく思います。

私はそこで考えました、世界に冠する有名建築士の弟子でも『餅は餅屋の』諺が通らないのが日本の建築業界なのかなと悲しく思いました。

日本の住まい作り如何に木を触れ合い、そして正直にお施主様に話をして頂ける情報等の材料を含めた本当の物を建築士さんに紹介するのが本当の材木屋の仕事だと感じました。

国産材を使った住まい作りこそが日本を救います。

世界的に石油価格は上昇しています。まだまだ上昇すると思います。又食物も石油同様同じようなカーブで価格が上昇しています。又石油が高い為にブラジル等の国では穀物をバイオエネルギーの原料として食べる物より車の燃料にしているのが昨今の状況です。一見石油及び穀物資源の取り合いになっているように見えますが、本当は世界中で【水】の取り合いになっているのです。世界中の水の内5%しか我々が使える水が無いのです。そして日本人の水も将来心配しなければいけない状況になっています。

又地球温暖化の為に海面が上昇し耕作できる面積も減ってきているのです。わが国もこの度のミャンマーのモンスーン被害と同じような被害を受ける可能性が大きいとマスコミでも報じられています。

ところで何故住宅産業が日本を救うかと言うのは、伐採時期に来ている日本のヒノキ・スギを使う。そして**自然に近い森林**に戻す。そうすれば森林が水を多く貯められる自然のダムになり日本人の必要としている水の確保が出来ます。しかしこのまま外国から輸入されるEW（エンジニアウッド・集成の構造材）を使い続けると荒れた森林が増えることがあっても減ることはないと思います。安定した水の確保が出来なければ国内農業を立て直す事も出来ないし自給率を上げる対策も唯単に耕作放棄地を元に戻したって農業が発展しません。

水の確保が出来れば田畑で色々な作物を作れます。そうすれば国内の食べる物の自給率を上げる事が可能になります。外国に依存している食べ物の率が下がり国内産の安定した食べ物の供給が可能になります。そして日本人の生活が豊かになると思うのです。

又水産業も資源の争いになってきています。マグロが世界中で食べられ高騰している事をご存知だと思いますが、日本の周りは全て海で凄く恵まれているのです。しかし沿岸漁業は森林の崩壊で大きなダメージを受けています。森林が荒れ果てている為に川に多くの土が流れ沿岸が汚染されるように漁獲が上がらないのです。私は趣味がダイビングなので雨の後海に潜ると川から大量の土が流れ込んで海の中の環境が痛んでいる事は良く承知しています。これも日本の森林が荒廃している証拠なのです。

石油が高騰している今こそ沿岸漁業を昔のように栄えるようにするのが我々日本人の責任だと思います。その為にも国内産の木材資源を使い自然に近い森に戻す必要があると思います。

自然に近い森林とは自然の法則で針葉樹と広葉樹が混合している森林です。下に針葉樹と広葉樹の違いを書きます。

広葉樹と針葉樹の違いは、

- ①樹木の幹の構造・機能の違い。広葉樹には、導管という水を通す専門の管があるのですが、針葉樹にはこれは無いのだそうです。つまり、広葉樹の方が効果的に水や養分を運び上げる力がある。
- ②根の違い。広葉樹の根の深さに対して針葉樹の根は非常に浅くまでしか伸びないのだそうです。つまり、養分や水を集める力が広葉樹の方が強い。
- ③葉の違い。広葉樹の場合は、形態的にも平らで針葉樹よりもより多くの光合成を行うことが出来ますし、沢山の水を葉から蒸散させる気孔も沢山あります。つまり、新陳代謝は、広葉樹の方が活発。
- ④針葉樹の方が広葉樹より時間的に早く使える。例えばスギ・ヒノキなら50年～70年で商材になります。しかし広葉樹の場合は約倍の年月を要します。

住まい作りには針葉樹と広葉樹両方とも必要です。家一軒当たりの必要な木材資源は針葉樹が例えば100必要とすれば広葉樹は50位でしょう。自然の法則に乗っ取り住まい作りをすれば最低限の木材輸入で賄えるに違いないと考えております。

日本人の豊かさを維持するためのキーワードは水です。水が無ければ何も出来ません。自給率を上げるにしても、沿岸漁業を豊かにするにも水が関係しているのです。

**水を確保出来る国作りに貢献出来る住まい作りこそ本当の日本人の
住まい作りだと思います。**

木材の裏話

林野庁編

林野庁の赤字約2兆円を我々が返済しているのをご存知の方はどれ位いらっしゃいますか。そもそもこの赤字の根源は天下りから発生したのです。林野庁から天下りを受け入れた製材業者は、特売と言って流通価格よりかなり安い価格にて国から原木を随意契約で貰っていたのです。

又天下りする前の人間に接待攻勢を掛け、刻印を打てるハンマーを借りたのです。そして一等・二等の良質材原木を三等・四等と誤魔化し市場へ出荷し大儲けをしたのです。

昔自民党の鈴木宗雄議員がらみの贈収賄事件の時ヤマリンと言う会社が違法伐採をして摘発された事を覚えている方もいらっしゃると思いますが、もう一社摘発されるとその当時噂に上っていました。しかしその会社は表面的には出ませんでしたが、制裁を食らったと聞いています。

この話を聞いて2~3社だけの問題では無いのは、常識的に解ると思います。彼らの方を持つわけでは有りませんが、立木の伐採の時、国有林の伐採権を購入した時は、落札後全額代金を国に納めます。そして伐採可能期間は三年間なのです。その三年間に購入した立木を伐採するのですが、たまにA（許可を受けた木）と言う木からB（許可を受けた木）と言う木まで伐採に行くのに邪魔になるX（許可を受け無い木）と言う木が有る場合仕方なく伐採するのはやむを得ない事でした。しかしそれが山となり二兆円を超える赤字に陥った事は事実です。

現在の国内の国有林の状況は完全に管理され特売とかの有利な随意契約はほぼ無くなったと聞いております。その影響で例えば私の知る限り北海道の製材工場は最盛期の20分の1以下になりました。

寸検編

製品の寸検の解り易い南洋材を例にします。例えばラワン材等の製材品は出石が有るのです。例えば長さ4メートルで厚み24ミリ巾185ミリの板の場合（国内販売の計算は $4 \times 0.024 \times 0.18 = 0.0173 \text{m}^3$ ・現地仕入れの計算は $3.95 \times 0.021 \times 0.175 = 0.0146 \text{m}^3$ ）約15.7%の出石が有るわけです。15.7%出石が有ると言う事はそれだけで儲けが有るのです。

【合板も有ります。2.5ミリの厚みの合板は輸入するときのインボイスの厚みは2.3ミリです。】

原木の場合私の知っている事はごく限られています。現地購入の単位は北米針葉樹の場合スクリブナーと言う単位です。それを日本国内の農林規格に直したら出石が有ると聞いています。昔は凄い出石が有りそれだけで儲かったと聞いています。

密輸編

中国産の広葉樹原木は基本的に輸出禁止です。しかし数量は決して多くは有りませんが、現実に日本に中国産原木と言う表示で輸入されているのは事実です。その密輸出する方法は以下のようなようです。

中国人がロシア材原木を大量に買い付けています。そしてロシア材原木を日本に三角輸出するような書類にして事実上中国材を混ぜ日本に輸出しているのです。

以前の服部新聞でも書きましたが、大手住宅メーカーの住友林業とヘーベルハウスの旭化成は、使用する材料に一切中国・ロシア材を使いませんと言っているのは、本当に当を得ていると思います。

密輸出は違法伐採の可能性が高い商品です。

ネット等で我々プロの材木屋から見て値段が凄く安く売られている商品は何か問題が有ると言っても可笑しく有りません。